

令和5年度 全日本中学校道徳教育研究会役員・理事会

道徳教育の更なる改善・充実を目指して

国立教育政策研究所
教育課程調査官 井上結香子
(併任) 文部科学省教科調査官

1

道徳教育の更なる改善・充実を目指して 内 容

- I はじめに
- II 道徳の「特別の教科」化による変化
- III 道徳科の授業改善
- IV 道徳科の特質を踏まえた ICTの効果的な活用
- V 道徳教育の更なる改善・充実に向けて
- VI おわりに
-今後の充実に向けた国の取組について-

2

I はじめに

3

新たな教育振興基本計画【概要】（令和5年度～9年度）			
我が国の教育をめぐる現状・課題・展望 【社会の現状や変化】 ・新型コロナウイルス感染症の拡大 ・ロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化、VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性） ・少子化・人口減少や高齢化 ・グローバル化・地球規模課題 ・DXの進展、AI・ロボット・グリーン（脱炭素） ・共生社会・社会的包摂 ・精神的豊かさの重視（ウェルビーイング） ・18歳成年・こども基本法 等	教育の普遍的な使命：学制150年、教育基本法の理念・目的・目標（不易）の実現のための、社会や時代の変化への対応（流行） ▶ 教育振興基本計画は予測困難な時代における教育の方向性を示す羅針盤となるものであり、教育は社会を牽引する駆動力の中核を担う営み		
	第3期計画期間中の成果 ・（初等中等教育）国際的に高い学力水準の維持、GIGAスクール構想、教職員定数改善 ・（高等教育）教学マネジメントや質保証システムの確立、連携・統合のための体制整備 ・（学校段階横断）教育費負担軽減による進学率向上、教育研究環境整備や耐震化 等	第3期計画期間中の課題 ・コロナ禍でのグローバルな交流や体験活動の停滞、不登校・いじめ重大事態等の増加 ・学校の長時間勤務や教師不足、地域の教育力の低下、家庭を取り巻く環境の変化 ・高度専門人材の不足や労働生産性の低迷、博士課程進学率の低下 等	
次期計画のコンセプト			
2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成 ・将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていく ・社会課題の解決を、経済成長と結び付けてイノベーションにつなげる取組や、一人一人の生産性向上等による、活力ある社会の実現に向けて「人への投資」が必要 ・Society5.0で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成		日本社会に根差したウェルビーイング（※）の向上 ・多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方 ・幸福感、学校や地域でのつながり、利他性、協働性、自己肯定感、自己実現等が含まれ、協調的幸福と獲得的幸福のバランスを重視 ・日本発の調和と協調（Balance and Harmony）に基づくウェルビーイングを発信 ※身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。	
今後の教育政策に関する基本的な方針			
① グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成 ・主体的に社会の形成に参画、持続的社会的発展に寄与 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、大学教育の質保証 ・探究・STEAM教育、文理横断・文理融合教育等を推進 ・グローバル化の中で留学等国際交流や大学等国際化、外国語教育の充実、SDGsの実現に貢献するESD等を推進 ・リカレント教育を通じた高度人材育成	② 誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進 ・子供が抱える困難が多様化・複雑化する中で、個別最適・協働的学びの一体的充実やインクルーシブ教育システムの推進による多様な教育ニーズへの対応 ・支援を必要とする子供の長所・強みに着目する視点の重視、地域社会の国際化への対応、多様性、公平・公正、包摂性（DE&I）ある共生社会の実現に向けた教育を推進 ・ICT等の活用による学び・交流機会、アクセシビリティの向上 人生100年時代に確立化する生涯にわたって学び続ける学習者	③ 地域や家庭と共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進 ・持続的な地域コミュニティの基盤形成に向けて、公民館等の社会教育施設の機能強化や社会教育人材の養成と活躍機会の拡充 ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進、家庭教育支援の充実による学校・家庭・地域の連携強化 ・生涯学習を通じた自己実現、地域や社会への貢献等により、当事者として地域社会の担い手となる	④ 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進 DXに至る3段階（電子化→最適化→新たな価値（DX））において、第3段階を見据えた、第1段階から第2段階への移行の着実な推進 GIGAスクール構想、情報活用能力の育成、校務DXを通じた働き方改革、教師のICT活用指導力の向上等、DX人材の育成等を推進 教育データの標準化、基盤的ツールの開発・活用、教育データの分析・利活用の推進 デジタルの活用と併せてリアル（対面）活動も不可欠、学習場面等に応じた最適な組合せ
⑤ 計画の実効性確保のための基盤整備・対話 NPO・企業等多様な担い手との連携・協働、安全・安心で質の高い教育研究環境等の整備、児童生徒等の安全確保	⑥ 各関係団体・関係者（子供を含む）との対話を通じた計画の策定等		

4

1

4

1

教育政策の持続的改善のための評価・指標の在り方 - 客観的な根拠を重視した教育政策のPDCAサイクルの推進 - 調査結果（定量・定性調査）に基づく多様な関係者の対話を通じた政策・実践の改善	- データ等を分析し、企画立案等を行うことのできる行政職員の育成 - 教育データ（ビッグデータ）の分析に基づいた政策の評価・改善の促進
教育投資の在り方 「人への投資」は成長の源泉であり、成長と分配の好循環を生み出すため、教育への効果的投資を図る必要。未来への投資としての教育投資を社会全体で確保。公教育の再生は少子化対策と経済成長実現にとっても重要であり、取組を推進する。 ①教育費負担軽減の着実な実施及び更なる推進 - 幼児教育・保育の無償化、高等学校等就学支援金による授業料支援、高等教育の修学支援新制度等による教育費負担軽減を着実に実施 - 高等教育の給付型奨学金等の多子世帯や理工農系の学生等の中間層への拡大等 ②各教育段階における教育の質の向上に向けた環境整備 - GIGAスクール構想の推進、学校における働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実、教師の育成支援の一体的推進 - 国立大学法人運営費交付金・私学助成の適切な措置、成長分野への転換支援の基金創設 - リカレント教育の環境整備、学校施設・大学キャンパスの教育研究環境向上と老朽化対策等 OECD諸国など諸外国における公財政支出など教育投資の状況を参考とし、必要な予算について財源を措置し、真に必要な教育投資を確保	

今後5年間の教育政策の目標と基本施策		
教育政策の目標	基本施策（例）	指標（例）
1. 確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成	- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実 - 新しい時代に求められる資質・能力を育む学習指導要領の実施 - 幼児教育の質の向上 ○高等学校教育改革 ○大学入学者選抜改革 - 学習者本位の教育の推進 ○文理横断・文理融合教育の推進 - キャリア教育・職業教育の推進 ○学校段階間・学校と社会の接続の推進	- OECDのPISAにおける世界トップレベル水準の維持・到達 - 授業の内容がよく分かる、勉強は好きと思う児童生徒の割合 - 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 - 高校生・大学生の授業外学習時間 - PBL（課題解決型学習）を行う大学等の割合 - 職業実践力育成プログラム（BP）の認定課程数
2. 豊かな心の育成	- 道徳教育の推進 ○発達支持的生徒指導の推進 ○いじめ等への対応、人権教育 - 児童生徒の自殺対策の推進 ○体験・交流活動の充実 ○読書活動の充実 - 伝統や文化等に関する教育の推進 ○文化芸術による子供の豊かな心の推進	- 自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 - 人が困っている時は進んで助けていると考える児童生徒の割合 - 自然体験活動に関する行事に参加した青少年の割合
3. 健やかな体の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成	- 学校保健、学校給食・食育の充実 ○生活習慣の確立、学校体育の充実・高度化 - 運動部活動改革の推進と身近な地域における子供のスポーツ環境の整備充実 - アスリートの発掘・育成支援	- 朝食を欠食する児童生徒の割合 1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合 - 卒業後にもスポーツをしたいと思う児童生徒の割合
4. グローバル社会における人材育成	- 日本人学生・生徒の海外留学の推進 ○外国人留学生の受入の推進 - 高等学校・高等専門学校・大学等の国際化 ○外国語教育の充実	- 日本人学生派遣50万人、外国人留学生受入れ40万人（2033まで） - 英語力について、中・高卒業段階で一定水準を達成した割合
5. インノベーションを担う人材育成	- 探究・STEAM教育の充実 ○大学院教育改革 ○高等専門学校の高度化 - 理工系分野をはじめとした人材育成及び女性の活躍推進 - 起業家教育（アントレプレナーシップ教育）の推進 ○大学の共創拠点化	- 修士入学者数に対する博士入学者数の割合 - 自然科学（理系）分野を専攻する学生の割合 - 大学等における起業家教育の受講者数
6. 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成	- 子供の意見表明 ○主権者教育の推進 ○消費者教育の推進 - 持続可能な開発のための教育（ESD）の推進 ○男女共同参画の推進 - 環境教育の推進 ○災害復興教育の推進	- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合 - 学級生活をよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると答える児童生徒の割合

道徳教育の課題と特別教科化がめざすもの

量的課題

- 歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮がある。
- 他教科等と比べて軽んじられ、他の教科等に振り替えられていることもあるのではないかな。

年間35単位時間を確実に確保するという量的確保

質的課題

- 教員をはじめとする教育関係者にもその理念が十分に理解されておらず、効果的な指導方法も共有されていない。
- 地域間、学校間、教師間の差が大きく、道徳教育に関する理解や道徳の時間の指導方法にばらつきが大きい。
- 授業方法が、読み物の登場人物の心情を理解させるだけなどの型にはまったものになりがちである。
- 学年が上がるにつれて、道徳の時間に関する児童生徒の受け止めがよくない状況にある。

児童生徒一人一人が、答えが一つではない道徳的な課題を自分自身の問題として捉え向き合う「考え、議論する道徳」への質的転換

（「道徳教育の充実に関する懇談会」報告（H25.12.26）における指摘より）

道徳の「特別の教科」化（学習指導要領の改正）

教育再生実行会議の提言や中央教育審議会の答申を踏まえ、学習指導要領の一部を改正し、「道徳の時間」（小・中学校で週1時間）を「特別の教科 道徳」（「道徳科」）（引き続き週1時間）として新たに位置付ける（平成27年3月27日）。平成30年4月から小学校にて全面实施（中学校は31年度から）

具体的なポイント

- 道徳科に検定教科書を導入
- 内容について、いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善
 - 「個性の伸長」「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」「よりよく生きる喜び」の内容項目を小学校に追加
- 問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫
- 数値評価ではなく、児童生徒の道徳性に係る成長の様子を認め、励ます評価（記述式）
 - 指導要録の様式例は示すが、内申書には記載せず、入学者選抜に使用しない

※私立小・中学校はこれまでどおり、「道徳科」に代えて「宗教」を行うことが可能

「答えが一つではない課題に子供たちが道徳的に向き合い、考え、議論する」道徳教育への転換により児童生徒の道徳性を育む。

Ⅱ 道徳の「特別の教科」化による変化

令和3年度 道徳教育実施状況調査の概要

1. 調査の目的

道徳科を要とした道徳教育の全国的な取組状況や課題を把握することで、今後の道徳教育のさらなる改善、充実を図るために必要な知見を得る。

2. 調査対象

- ・公立小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程）
※無作為抽出により小学校1、197校、中学校1、144校
- ・全ての都道府県、市区町村の教育委員会（計1、784）

3. 調査内容

調査項目（小・中学校対象）	調査項目（教育委員会対象）
設問1 道徳教育の全体計画作成に当たり留意した点 設問2 道徳教育の充実のために学校として行った取組 設問3 道徳教育を推進する上での課題 設問4 道徳科の年間指導計画を活用しやすいものとするための工夫 設問5 道徳科の評価の工夫 設問6 道徳科の授業を実施する上での課題 設問7 道徳科の評価を行う上での課題 設問8 道徳教育の校内研修実施回数 設問9 校内研修で重点を置いていること 設問10 道徳教育推進教師が重点を置いて取り組んでいること 設問11 道徳教育の充実のために参考としている情報 設問12 道徳の「特別の教科」化を受けた変化 設問13 道徳の「特別の教科」化を受けたその他の変化	設問1 道徳教育の充実のためにしている取組 設問2-① 道徳教育のさらなる充実のために特に課題となっていること 設問2-② 課題解消に向けた方策のうち、単独での対応が困難なもの 設問3 道徳の「特別の教科」化を受けた学校における変化 設問4 道徳の「特別の教科」化を受けた学校におけるその他の変化

9

●道徳教育実施状況調査

- ・「道徳教育の更なる改善・充実を目指して～令和3年度道徳教育実施状況調査結果のポイント解説～」(動画)



令和3年度道徳教育実施状況調査の結果について、道徳担当教科調査官がポイントを解説する動画です。(所要30分程度)
先生方はもちろんのこと、各学校、教育委員会においても是非研修等でご活用ください。

- ・解説動画で使用している資料「道徳教育の更なる改善・充実を目指して」(PDF:8.3MB)
- ・令和3年度道徳教育実施状況調査(結果概要) (PDF:3.7MB)
- ・令和3年度道徳教育実施状況調査(報告書) (PDF:2.1MB)
- ・道徳教育実施状況調査(平成24年度実施) (PDF:318KB)
- ・道徳教育推進状況調査(平成20年度実施) (PDF:380KB)



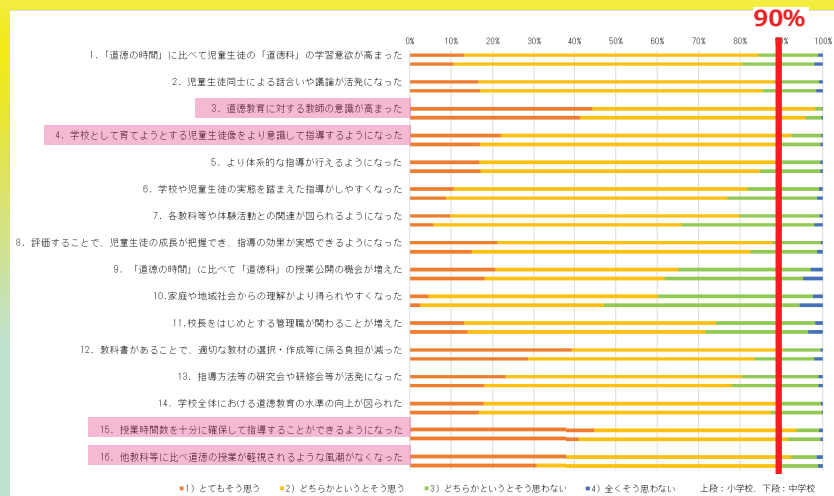
←道徳教育アーカイブQRコード

10

Ⅱ 道徳の「特別の教科」化による変化

調査結果（小・中学校）

【設問12】道徳の「特別の教科」化を受けた変化



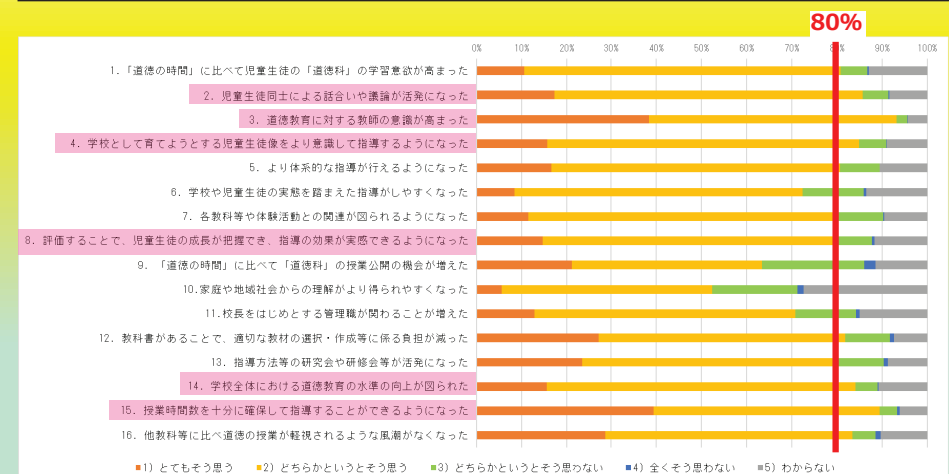
11

【令和3年度 道徳教育実施状況調査報告書より】

Ⅱ 道徳の「特別の教科」化による変化

調査結果（教育委員会）

【設問3】道徳の「特別の教科」化を受けた学校における変化



12

【令和3年度 道徳教育実施状況調査報告書より】

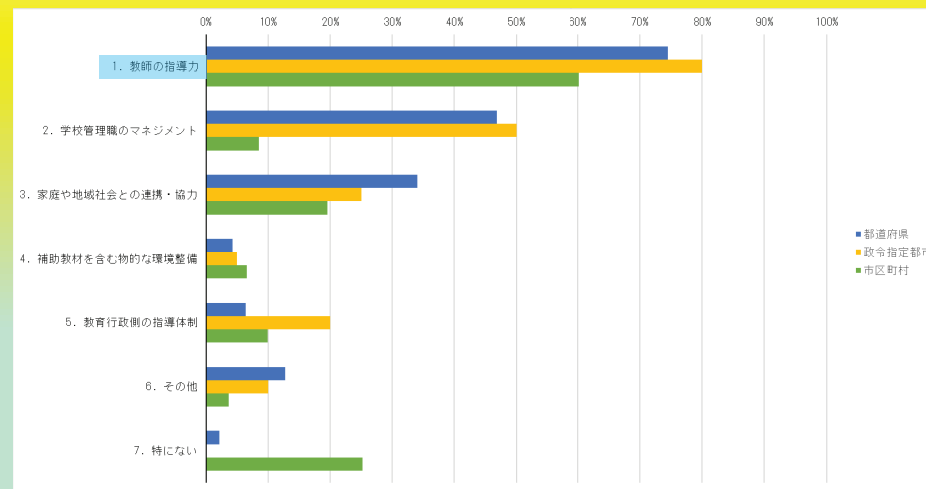
Ⅲ 道徳科の授業改善

13

Ⅲ 道徳科の授業改善

調査結果（教育委員会）

【設問2-①】道徳教育のさらなる充実のために特に課題となっていること（複数回答）



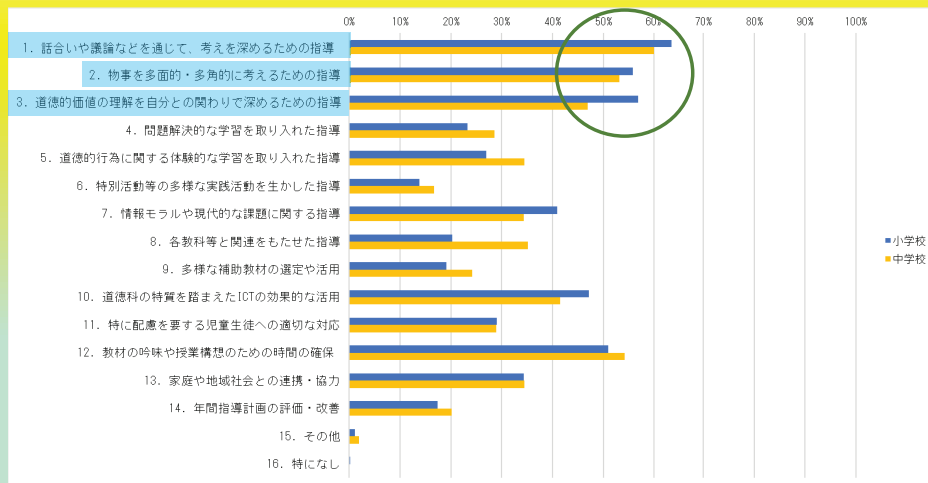
14

【令和3年度 道徳教育実施状況調査報告書より】

Ⅲ 道徳科の授業改善

調査結果（小・中学校）

【設問6】道徳科の授業を実施する上での課題（複数回答可）



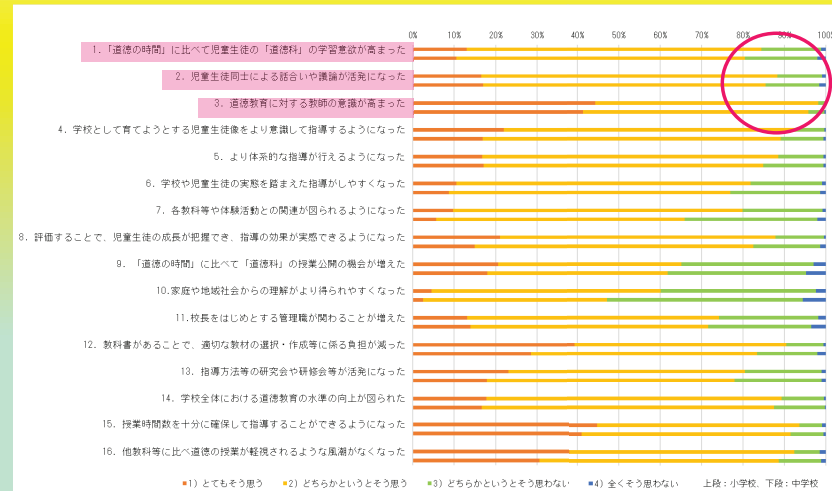
15

【令和3年度 道徳教育実施状況調査報告書より】

Ⅲ 道徳科の授業改善

調査結果（小・中学校）

【設問12】道徳の「特別の教科」化を受けた変化



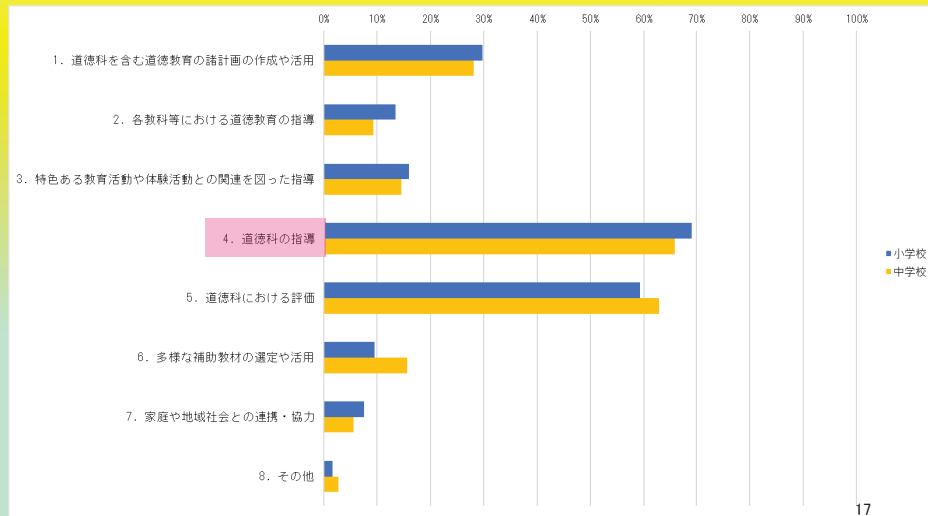
16

【令和3年度 道徳教育実施状況調査報告書より】

Ⅲ 道徳科の授業改善

調査結果（小・中学校）

【設問9】校内研修で重点を置いていること（複数回答可）

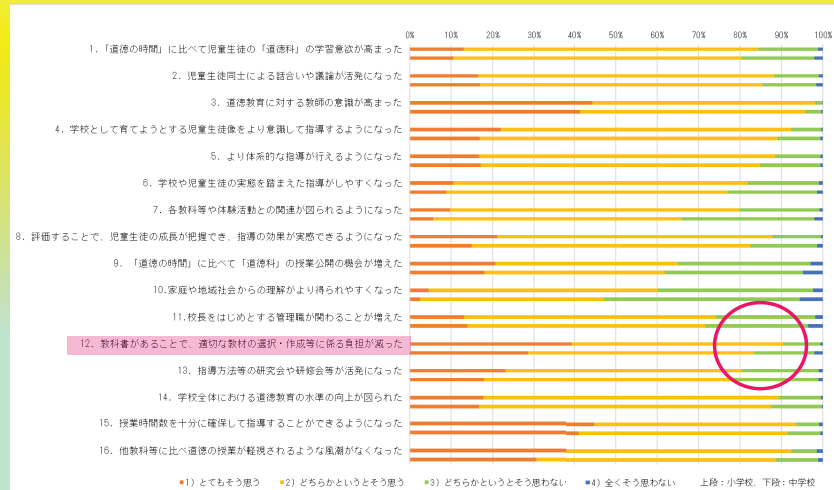


【令和3年度 道徳教育実施状況調査報告書より】

Ⅲ 道徳科の授業改善

調査結果（小・中学校）

【設問12】道徳の「特別の教科」化を受けた変化

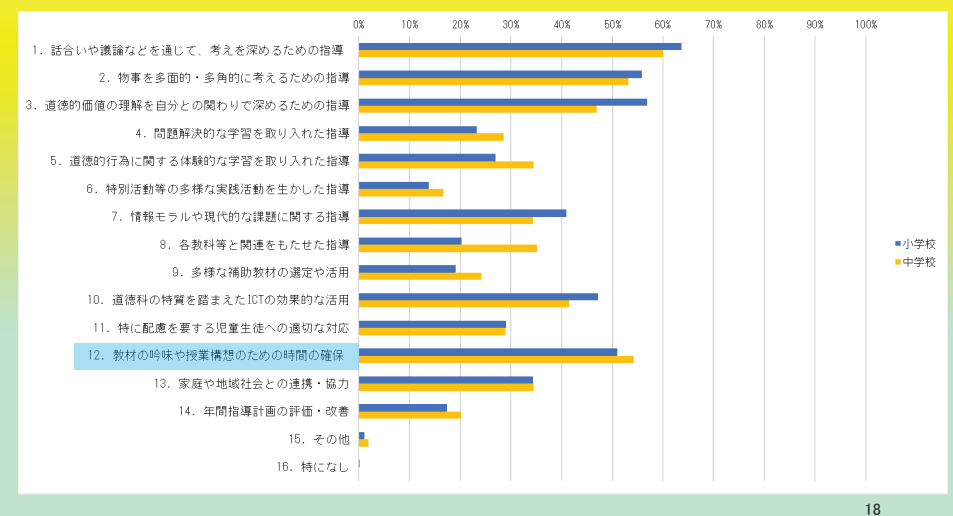


【令和3年度 道徳教育実施状況調査報告書より】

Ⅲ 道徳科の授業改善

調査結果（小・中学校）

【設問6】道徳科の授業を実施する上での課題（複数回答可）



【令和3年度 道徳教育実施状況調査報告書より】

Ⅲ 道徳科の授業改善

調査結果（小・中学校）

【設問13】道徳の「特別の教科」化を受けたその他の変化（自由記述）

前向きな変化

- 道徳に興味を持つ児童生徒、道徳で学んだことを生活に生かそうとする児童生徒が増えた。
- 学級担任以外の教師の意識が高まり、学校全体で連携した実践が増えた。
- 教材の扱い方や指導方法について、日頃から教師間の話し合いが活発に行われるようになった。
- 多様な指導法や発問を工夫するようになった。
- 記述評価により、児童生徒が自分のよさや成長を実感できるようになった。
- 評価することにより指導中の児童生徒の発言や様子に教師自身が様々な視点で目を向けることが増えた。

課題につながる変化

- 教科書や教科書発行者の指導書に頼る傾向が見受けられるようになった。
- 道徳科の評価という学級担任の業務が増えた。
- 児童生徒の道徳性に係る成長の様子を把握することは容易ではなく、評価への意識の高まりとともに、評価に不安を抱える教師が増えた。

【令和3年度 道徳教育実施状況調査報告書より】

IV 道徳科の特質を踏まえたICTの効果的な活用

21

IV 道徳科の特質を踏まえたICTの活用

3.2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

2020年代を通じて実現を目指す学校教育
「令和の日本型学校教育」の姿

＼全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現／



子供の学び

- ✓「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実されている
 - ✓各学校段階において、それぞれ目指す学びの姿が実現されている
- #個別最適な学び #協働的な学び
#主体的・対話的で深い学び #ICTの活用



教職員の姿

- ✓環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている
 - ✓子供の一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている
 - ✓子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている
- #教師の資質・能力の向上 #多様な人材の確保 #家庭や地域社会との連携
#学校における働き方改革 #教職の魅力発信 #教職志望者の増加



子供の学びや
教職員を支える環境

- ✓ICT環境の整備により全国の学校で指導・支援の充実、校務の効率化等がなされている
 - ✓新しい時代の学びを支える学校教育の環境が整備されている
 - ✓人口減少地域においても魅力的な教育環境が実現されている
- #ICT環境の整備 #学校施設の整備
#少人数によるきめ細かな指導体制

22

IV 道徳科の特質を踏まえたICTの活用

答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子供たちが自分自身の問題と捉え、向き合う、「**考え、議論する道徳**」への転換、「**主体的・対話的で深い学び**」の視点からの授業改善が求められる。



道徳科の目標に示された

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習



目標に示された道徳科の学習が、より効果的に行われるようにするための**手段としてICTを活用**

23

IV 道徳科の特質を踏まえたICTの活用

道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

24